

一水四見

今見えている世界は、一人ひとりが

同じように見えているのでしょうか。もしかすると人によ

って見える世界はかなり違うのかもしれない。

ある日の事でした。台所で恐ろしい光景が見えたのです。

だ、大吟醸のお酒が料理酒として使われているではありませんか！「なんでこんないい酒を料理に使うんだ」母親に言

うと「だっておいしくできるんだもん」・・・絶句。

私にとっては、おいしく飲むのがお酒

母にとっては、おいしく料理する調味料がお酒

見える景色が違ったようです。

今回の一水四見とは、水は見るものによって違って見え

るという考えのことです。人間には水に見えるが、天人は

瑠璃の大地に見え、地獄の人々は膿の河に見え、魚には道路

に見えるというのです。



とーたんいやや
かーたんいよ
母屋に母艦に
老母音
やばり母は、老母
偉大なり

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語
を紹介して
います。

いのち

いのちについて、仏教のたと
え話があります。

むかし、むかし、インドにシ

ビ王という王様がいました。ある日、お城の窓から鷹に追わ
れた鳩が入ってきてシビ王の所にやってきました。このまま
では鷹に食べられてしまう鳩を助けたいとシビ王は、私の肉
を食べたらいいと鷹に条件を出します。鷹は、それでは鳩と
同じ重さの肉をくれたら助けてやろうと条件を出しました。

交渉は成立し、家来に秤を持ってこさせました。シビ王は、
自分の足の肉を、鳩と同じくらい大きさに切り取りました。
そして秤の皿に鳩をのせ、反対の皿に自分の足の肉をのせま
した。鳩のほうが重く下にさがっています。王様は家来に「こ
の秤は壊れているのではないか？新しい秤でもう一度量って
みよ。」と、言いました。家来は新しい秤で量ってみました
がやはり先程と同じで鳩のほうが重いのでした。王様は「おか
しいな」と、首をかしげながら静かに考えました。そして、
王様は「あ、わかった。」といって、自分が秤にのりました。
するとどうでしょう。王様の方が重いはずなのに、秤は釣り
合いがとれて同じ重さを示しました。王様は、鷹に言いまし

た。「どうぞ私を食べて下さい。」すると、

鷹は帝釈天に姿を変えて「シビ王、あな
たはいのちの尊さに気づいてくれた。あ
なたはきつと仏さまになれるでしょ
う。」と言って、王様の行いをほめたたえ
ました。

